

## 近郊農村における高齢者の生活と意識

——愛知県西加茂郡三好町を事例として——

戸 谷 修

Community life and Perceptions of Senior Citizens in Rural Suburbs

——a Report based on the Research of Miyoshi town, Aichi——

Osamu TOTANI

### 1) 調査目的

わが国における人口の高齢化・長寿化は現在、急速に進んでおり、21世紀初頭には世界に類をみない高齢社会が到来するといわれている。こうした高齢化・長寿化のそれぞれの地域社会に及ぼす影響は計りしれないものがあると考えられており、その対応は近年、雇用、所得保障、健康、福祉などさまざまな分野においてなされている。

ところで、人口の高齢化が強く唱えられているいま、そこでの論調の多くは、アメリカのケン・ディヒトバルトも指摘しているように、「老化恐怖症神話」とよばれるものである。彼は、『エイジ・ウェーブ』のなかで、「老化恐怖症神話」として六つのことをあげているが、これらの「神話」は現代日本の高齢者問題の捉え方にも当てはまるものである。六つの「神話」というのは、「①65才以上は年寄りである。②年寄りのほとんどは健康を害している。③年寄りの頭は若者のように明敏ではない。④年寄り是非生産的である。⑤年寄り魅力がなく、セックスに対しても無縁である。⑥年寄り誰も皆同じようである。」「<sup>(1)</sup>」というものである。ディヒトバルトはこの「神話」は現代のアメリカ社会において事実反として鋭く批判しているのであるが、わが国でも六つの「神話」が高齢者問題へのアプローチにおいては一般的に暗黙のうちに前提となってきたように思われるので、果して、現在の日本において、高齢者は一般的に「神話」のような状態のなかにおかれているのかという実態把握をも念頭において、今回の三好町の高齢者調査を行ってみたいと考えた。実際、わが国についていえば、「65才以上は年寄りである」、そして「その年寄りのほとんどは健康を害している。」という神話は、現在の日本の高齢者の大多数が介護を必要とするものではなく、ましてや寝たきりになっている高齢者ではない健康高齢者であることから明らかである。もっとも彼らは健康であるとはいえ、自らの健康に最大の関心をはらって日々を過ごしていることも事実ではあるが…。現在、日本における要介護者数比率は65才以上人口の5.23%、寝たきり者数比率は1.81%で<sup>(2)</sup>、彼ら自身やその家族の悲惨さは、ことばではいい表わせないほど厳しいものであることは事実で、要介護になった人びとやその家族に対しては十分な対策を必要とすることはいうまでもないが、この数値は高齢者全体からいえばきわめてわずかな数値であることも確認しておく必要がある。

したがって、「人生80年時代」における大多数の健常高齢者（要介護者数比率は65才以上人口の5.23％、寝たきり者数比率は1.81％である。）においては、長きにわたる老後を単なる「余生」として送るのではなく、すばらしい「セカンド・ライフ」として積極的にとらえ多様な生き方をしていかなければ、決して豊かな人生とは言えない。しかしながら、現在のところ、こうした生き方を支援していく施策は必ずしも充分行われているとはいえない。それぞれの高齢者が孤独に陥ることなく生きがいをもって生きていくためには、子どもたちや地域社会における様々な人びととの交流が不可欠なことであるし、また高齢者自身が積極的にセカンド・ライフを生きていく意識を持たなければならないことはいうまでもないが、その実態については充分把握されていないのが現状である。したがって、今回の調査では、これらの点に焦点をあてて三好町を事例として調査を行ったものである。

まず第一に高齢者がどのように子どもや地域社会の人びとと接触・交流をもち、いかなる生活意識をもっているかを明らかにする前提として、対象者となる高齢者の生まれ育った所、世帯構成、生活の収入状況、健康状態などを明らかにしようとした。第二に対象者となる高齢者の活動状態を、家庭において高齢者が担っている役割、よく参加している会合、地域行事への参加状況、趣味活動などによって明らかにしようとした。第三に対象者の交流状況を、子どもの有無ならびに彼らの居住場所、別居子の交流状態、近隣の人びととのつき合い状況、友達とのつき合い状況などの調査によって明らかにしようとした。第四に高齢者の生活意識については、自らが老人だと思ふ年齢、自らが老人になることへのイメージ、高齢者自身の現在の生き方、家族とのつき合いに関する考え、人生を通じてもっとも大切だと思っているもの、介助を頼みたい人の有無とその人はどんな関係の人かなどによって明らかにしようとした。

## 2) 調査方法

1996年10月、三好町老人クラブに依頼して、老人クラブ会員2,471名から197名を抽出して調査対象者とし、調査を行った。調査のさいの項目は本稿のあとに付け加えておいた調査票の通りである。調査時点で、三好町65才以上の高齢者人口は3,178名であった（男性1,379名、女性1,799名）。老人クラブの組織率は65才以上の高齢者人口の約79％である。

老人クラブを通じて回収したこともあって、回収率は100％であった。

今回の調査の結果を比較するためにいくつかの調査報告を利用したが、その主なものは、下記のものである。

### (1) 総務庁長官官房老人対策室編

『老人の生活と意識—第3回国際比較調査結果報告書』（平成4年中央法規）

### (2) 三好町『住民意識調査報告書』（昭和55年度、平成6年度、平成7年度）

なお、今回の調査の分析にさいしては、「新しく行政区となった三好ヶ丘などのようなところ」とは、行政区では、三好ヶ丘、三好丘緑、三好丘旭、三好丘桜、上ガ池、平池、山伏、中島など旧集落でないところを指す。これらの地域は高齢者が少なく、老人クラブへの参加者も非常に少ない。好住、ひばりが丘、あみだ堂には、老人クラブはない。三好ヶ丘老人クラブは、三好ヶ丘、三好丘緑、三好丘旭、三好桜の行政区を合わせたものである。

### 3) 三好町の概況

三好町（1958年・町制施行）は名古屋の東南約20kmのところに位置している（三好町役場から名古屋市役所までは22.8km）。現在、名古屋市の都市圏に組み込まれている三好町のような名古屋市の周辺の村々では、第2次世界大戦前の産業・就業構造をみれば明らかのように、かつては、その殆どを農業に依存していたところであった。したがって、これらの村々は、その行政区域ごとに自立性をもった、それ自体完結した小宇宙のような存在として存立していた。本稿で対象とする三好町もその典型的な村であったといえよう。しかし、完結した小宇宙のごとき三好町も、1960年頃を転換期として大きく変貌し、かつての「むら」は急速に解体していった。

本稿で対象とする三好町を大きく変容させていったものとしては、三つの事象をあげることができる。(1)愛知用水が通水したこと。それを契機として農地の区画整理が大々的に行われた。(2)トヨタ自動車が世界的企業として、飛躍的に規模を拡大する過程のなかで、行政側も企業誘致条例を設けて、積極的にトヨタ自動車をはじめ多くの企業を誘致したこと（1960年三好町工場誘致奨励条例制定）<sup>(3)</sup>。もっとも、工場の大々的な誘致は農地の区画整理、土地改良、用排水路分離の整備などによってはじめて可能になったものであったことを留意しておく必要がある。(3)1979年名鉄豊田線が開通したこと。この名鉄豊田線は名古屋から延びてきている地下鉄を赤池で結び、相互乗入れを行い、名古屋、豊田などへ時間的距離を著しく短縮したものである<sup>(4)</sup>。この開通を契機として、三好町北部地域には、三好ヶ丘ニュータウンが生れ、1991年以降多くの人口が続々と流入してきていることをあげることができる。第4次三好町総合計画によれば、2010年には、三好ヶ丘ニュータウンの人口は24,100人になると予想されている<sup>(5)</sup>。

以上のような事象によって、かつての三好町は外部に閉ざされた村落ではなくなり、現在では、その様相をすっかり変えてしまった。表1は1950年以降の人口、世帯数の推移を

表1 三好町における人口および世帯数の推移

年	世帯数	人口	一世帯当りの人数
1950 (S. 25)	1,682 戸	9,372 人	5.57 人
1955 (S. 30)	1,689	9,006	5.33
1960 (S. 35)	1,760	9,161	5.21
1965 (S. 40)	2,720	14,438	5.31
1970 (S. 45)	4,385	19,734	4.50
1975 (S. 50)	6,086	25,303	4.16
1980 (S. 55)	7,330	28,552	3.89
1985 (S. 60)	7,816	30,039	3.84
1990 (H. 2)	8,842	32,241	3.65
1995 (H. 7)	12,188	39,923	3.28

（出所）各年「国勢調査」より作成

示したものであるが、いかに多くの人口が1960年以降、三好町に流入しているかを知ることが出来る。1950年の世帯数、人口数をそれぞれ100とすると、45年間を経過した1995年では世帯数は725、人口数では426となっている。一世帯当りの平均人数の縮小化が進んでいることが理解されよう。

また、三好町に流入してくる人口の多くは、次々と設立された工場で働く若い労働者が多かったこともあって、表2で示されているように、三好町の人口構造は比較的若い人びとを多くかかえた構造となっている。1984年に策定された「第3次三好町総合計画」が10年後を目標年次とした三好町の都市像を「希望に満ち活気あふれる青年都市」といったのもきわめて的を得たものであった<sup>(6)</sup>。いま、1995年の年齢階層別人口割合を事例にとれば、15～64才の生産年齢人口は全国平均にくらべてかなり高く、さらに、65才以上の老年人口にいたっては9.5%（全国14.8%、愛知県12.0%）ときわめて低いという状況をつくりあげている。したがって、この数値からみるかぎり、高齢化の時代が到来し、その対策がそれぞれの市町村で大きな問題となっている現在の日本社会全体のレベルからいえば、三好町では高齢化の問題は、まだ全体としてはそれほど深刻な問題とはなっていない。しかしながら、個々の集落別にみると、かなり高齢化の深まっている集落もあり、また全体にみてもあと十数年後には、超スピードで高齢人口が多くなることは確かである。そのような意味では、行政側としては、これらの対策を余力のあるときにしっかりとっておくことも大切なことである。

表2 三好町における年齢階級別人口比の推移(%)

年	0～14才	15～64才	65才以上	65才以上(全国)	65才以上(愛知県)
1955(S.30)	33.7	60.0	6.3	5.3	5.2
1960(S.35)	29.2	63.5	7.3	5.7	5.2
1965(S.40)	22.5	72.2	5.3	6.3	5.3
1970(S.45)	24.7	70.5	4.8	7.1	5.7
1975(S.50)	28.9	66.4	4.7	7.9	6.3
1980(S.55)	28.0	66.6	5.4	9.1	7.4
1985(S.60)	23.5	69.6	6.6	10.3	8.5
1990(H.2)	18.5	73.8	7.5	12.0	9.8
1995(H.7)	18.0	71.8	9.5	14.5	11.9

(出所) 各年「国勢調査」より作成

また、戦後40年間の三好町の動向を、産業構造の側面からみると、三好町の産業構造は著しく変貌したといえる。この点は、表3にて、「三好町における産業別就業者数の推移」をみただけでも明らかなことである。三好町の就業労働人口は1955年から1995年の40年間に約5倍に増加している。しかし、各産業部門間には、きわめて不均等に作用したといえる。1955年における第1次産業部門の就業者数は3,224人、全就労者人口の実に76.2%を占めていた。その際、第2次産業部門は9.3%、うち製造業だけでは6.1%であった。また、第3次産業は14.5%に過ぎなかった。ところが、それから40年間を経過した1995年時点では、第1次産業に従事する就業者数は、385人、全就業者人口のわずか4.0%に減少してしまった。この数値は三好の村落社会が経済的には大きく変質してしまったこ

とを示している。それに対して、第2次産業部門では、全就業人口の46.5%，第3次産業部門では、49.3%と大幅に増大している。このうち、個々の産業部門についてみると製造業に従事するものももっとも多く、1995年現在全就業者の38.0%に及んでいる。この数値は、1970年時点のピーク時からみると、かなり低下しているが、個々の産業部門間では、1970年以来製造業は他の産業部門を大きくひきはなして、もっとも就業人口比の大きい産業部門の位置を占めている。そのような意味では、1960年代以降の三好町の産業構造は農業から製造業へと大きく変わり、製造業に著しく特化している構造をもっているといえよう。

表3 三好町における産業別就業者数の推移(15才以上)

年	総数(人)	第1次産業(人)	第2次産業(人)	うち製造業(人)	第3次産業(人)
1955(S.30)	4,233	3,224(76.2)	394( 9.3)	257( 6.1)	615(14.5)
1960(S.35)	4,913	3,209(65.3)	851(17.3)	564(11.5)	852(17.4)
1965(S.40)	7,160	2,586(36.1)	2,711(37.9)	2,267(31.7)	1,861(26.0)
1970(S.45)	9,945	2,006(20.2)	5,005(50.3)	4,427(44.5)	2,873(29.5)
1975(S.50)	11,291	1,320(11.7)	5,750(50.9)	4,845(42.9)	4,165(37.4)
1980(S.55)	12,974	1,068( 8.2)	6,548(50.5)	5,528(42.6)	5,353(41.3)
1985(S.60)	14,265	937( 6.6)	7,233(50.7)	6,173(43.3)	6,089(40.7)
1990(H.2)	16,311	784( 4.8)	8,331(51.1)	7,089(43.5)	7,170(44.0)
1995(H.7)	20,981	829( 4.0)	9,765(46.5)	7,973(38.0)	10,348(49.3)
うち 男	13,147	432	7,038	5,593	5,658
うち 女	7,834	397	2,727	2,380	4,690

(出所) 各年「国勢調査」より作成

#### 4) 調査結果とその考察

##### 《年齢・性別構成》

調査対象者、197名について、設問1-①で年齢構成ならびに性別構成を調査した。調査対象者197名の年齢構成は、

60才代101名51.2% (うち男性57名(56.4%) 女性44名(43.6%)) ,

70才代80名40.6% (うち男性51名(63.8%) 女性29名(36.2%)) ,

80才代16名8.2% (うち男性6名(37.5%) 女性10名(62.5%)) である。

また、性別構成では男性114名(57.9%)、女性83名(42.1%)である。

##### 《生まれ育ったところ》

今回三好町で行った調査対象者について、設問1-②で、高齢者たちが「生まれ育ったところ」を尋ねた。彼らが「生まれ育ったところ」は、「三好町」が調査対象者の半数(50.3%)である。また、三好町以外の愛知「県内」から移ってきているものが31.5%、「県外」から移ってきたものが、16.2%となっている。

大多数のものが「三好町」または、その近くの「県内」で生まれ育った高齢者である。もっとも、新しく行政区のつくられた三好ヶ丘などでは、「三好町」に生まれ育った人びとはわずか4%にすぎない。

また、男女別にみると、男女間に若干の差がみられる。男性では2/3近くのものが「三

好町」で生まれ育った人びとであるのに対し、女性の方は「三好町」で生まれ育った人びとは1/3にすぎない。2/3の女性は三好町以外のところから嫁いできた人びとである。

### 《過ごしている家族の類型》

つぎに、高齢者がどのような家族類型のところで暮らしているかを明らかにしておこう。三好町の1995年（平成7年）国勢調査によれば、表4に示されているように「夫婦と両親」、「夫婦と片親」、「夫婦・子どもと両親」、「夫婦・子どもと片親」など、いわゆる直系家族の家族形態を示す世帯の割合は全世帯数の14.7%（全国；13.7%，愛知県14.2%）である。また、核家族世帯は63.4%（全国；58.7%，愛知県59.2%），単独世帯は20.7%（全国；25.7%，愛知県25.2%）となっている。三好町の家族類型は全国、愛知県全体の平均と比較すると、伝統的家族形態の色合いをかなり強く残している世帯が多いところといえよう。

表4 三好町における家族類型別一般世帯数の推移(1975～1995)

	1975 (昭和50)	1980 (昭和55)	1985 (昭和60)	1990 (平成2)	1995 (平成7)	1995 (愛知県)	1995 (全国)
核家族世帯(戸)	4,186	4,781	4,937	5,540	7,711		
(%)	70.3	69.4	63.4	63.2	63.4	59.2	58.7
拡大家族世帯							
直系家族世帯(戸)	1,245	1,392	1,556	1,616	1,783		
(%)	21.8	20.2	19.9	18.4	14.7	14.2	13.7
その他の家族世帯(戸)	57	60	74	78	106		
(%)	1.0	0.9	1.0	0.9	0.9	1.2	1.7
非家族世帯(戸)	7	9	13	13	40		
(%)	0.1	0.1	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2
単独世帯(戸)	459	645	1,208	1,517	2,517		
(%)	7.7	9.7	15.5	17.3	20.7	25.2	25.7
合計(戸)	5,954	6,887	7,788	8,764	12,157		
(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所) 各年「国勢調査」より作成

ところで、三好町全体の家族類型の状況は以上の通りであるが、今回の三好町の調査においては設問1-③にて、高齢者はどのような家族類型に住んでいるかを調べた。「自分たち夫婦と子ども家族」36.0%「自分と子ども家族」33.5%，両者合わせた69.5%調査対象者全体の約7割の高齢者が直系家族型世帯のなかで暮らしていた。「自分たち夫婦のみ」といわれる核家族型の世帯は全体の17.8%、「一人暮らし」といういわゆる単独世帯は5.1%であった。以上述べたように三好町全体としていえば高齢者のほとんどは、直系家族型の世帯で暮らしているのであるが、三好ヶ丘のような新しく行政区をつくったところでは、最も多い家族型は、「自分たち夫婦のみ」の核家族世帯である。

三世代家族の世帯が年々次第に減少していくことから推察すると、現在、三好町では、高齢者がいる世帯といえば、直系家族型世帯（＝三世代家族）が圧倒的であるが、これから十数年後、本格的に高齢化を迎えたときは、三好町にも三世代家族の高齢者世帯と核家

族型の高齢者世帯とが拮抗するようになることが予想される。また、今回の調査における数値は、各年次の国勢調査によって明らかにされている三好町における65才以上の高齢者のいる家族類型別世帯の割合（表5）、65才以上の高齢者がどのような家族類型の世帯で過ごしているか（表6）の数値ともほぼ一致している。

表5 三好町における65才以上の高齢者のいる家族類型別世帯数の割合

（単位：％）

	1975 (昭和50)	1980 (昭和55)	1985 (昭和60)	1990 (平成2)	1995 (平成7)	愛知県 (平成7)	全国 (平成7)
(1) 核家族世帯	2.9	3.2	4.7	6.0	7.5	15.7	20.0
夫婦のみの世帯	11.3	13.9	21.2	21.0	17.9	34.1	40.0
夫婦と子どもの世帯	1.2	1.1	1.4	1.8	2.7	5.7	7.6
父親と子どもの世帯	5.9	6.1	3.0	7.9	20.7	24.7	29.9
母親と子どもの世帯	12.3	13.8	15.6	18.7	21.7	28.2	31.6
(2) 拡大家族世帯	59.5	67.6	70.2	71.0	73.8	77.9	79.8
直系家族世帯	59.8	67.7	70.5	71.2	74.4	79.8	81.3
その他の親族世帯	50.9	65.0	63.5	66.3	65.1	57.7	57.9
(3) 非親族世帯	-	-	7.7	7.7	7.5	9.7	10.9
(4) 単身世帯	6.1	6.8	4.7	6.1	5.9	14.4	19.6

（出所）各年「国勢調査」より作成

表6 65才以上の高齢者はどのような家族類型の家族で過ごしているのか

（単位：％）

	三 好 町					愛知県	全国
世帯の 家族類型	1975 (昭和50)	1980 (昭和55)	1985 (昭和60)	1990 (平成2)	1995 (平成7)	1995 (平成7)	1995 (平成7)
(1) 核家族世帯	13.3	13.1	16.1	20.4	29.0	37.3	40.4
夫婦のみの世帯	6.7	6.5	9.2	11.5	17.3	22.0	23.8
夫婦と子どもの世帯	4.4	3.7	3.8	4.5	7.3	8.5	9.0
父親と子どもの世帯	0.2	0.2	0.2	0.4	0.9	1.1	1.2
母親と子どもの世帯	2.0	2.5	2.9	3.9	3.5	5.7	6.4
(2) 拡大家族世帯	83.7	83.2	80.0	73.8	65.7	48.1	42.3
直系家族世帯	80.6	79.8	76.7	70.0	63.1	45.0	38.9
その他の親族世帯	3.1	3.4	3.3	3.8	2.6	3.1	3.4
(3) 非親族世帯	-	-	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
(4) 単身世帯	3.0	3.7	4.0	5.7	5.2	14.5	17.3
一般世帯家族合計	100.0 (925)	100.0 (1,179)	100.0 (1,432)	100.0 (1,628)	100.0 (2,127)	100.0	100.0

（出所）各年「国勢調査」より作成

なお、国際比較調査によって日本全体の調査結果をみると、高齢者のいる世帯のうち、高齢者の多くいる家族型は「夫婦のみの世帯」(33.8%)と「三世代家族の世帯」(31.4%)である。以上の点からいえば、三好町は、日本全体の中でも、高齢者の暮らしている家族は、現在のところ、直系家族型の世帯で約7割を占めており、そのような意味では、高齢者の多くは伝統的な家族形態の世帯に住み、そのなかで日々生活を送っているといえよう。欧米諸国では、高齢者の多く暮らしている家族類型は、「夫婦のみの世帯」と「単独世帯＝一人暮らしの世帯」である。アメリカの場合、「夫婦のみの世帯」は40.8%、「単独世帯」は35.1%となっている<sup>(7)</sup>。

### 《現在の就労状況》

高齢者自身の経済面での暮らし向きを把握するため、彼らが現在仕事にたずさわっているかどうか、現在の暮らし向きをどう思っているか、また自らの経済生活を支えている収入源は何かについて調べた。

設問1-④にて、三好町の調査で、現在、仕事をしているかどうかを尋ねたところ、調査対象者の約半分の人びと(48.7%)が仕事をしている。もっとも三好ヶ丘など新しく行政区が開かれたところでは、多くの人々がかつてサラリーマンであったためか、4.0%しか仕事をしてはならず、三好町全体の就労状況とは著しく異なっている。三好町の高齢者の人々が働いている就業の内容は、高齢になっても充分一人前として働くことのできる自営の農業や自営商工業部門で、仕事に就いているものの63%がこの部門に就いている。それについて会社員など一般の企業で働いている勤労者は、仕事に就いているものの15%に過ぎない。また、年齢別にみると、概して70才代後半以降、就労する人は激減している。

以上の三好町の調査結果を国際比較調査によって行われた日本全体の数値と比べてみると「仕事をしている」と答えた高齢者は日本全体では45%、欧米に比べて著しく高率である。欧米諸国で仕事に就いている高齢者はアメリカで20%、イギリスで7.2%、ドイツで7.4%に過ぎない<sup>(8)</sup>。これらの数値は日本の高齢者が、いかに高齢になっても働いているかを示している。この理由についてはさまざまな理由が考えられるが、もっとも大きな点は、勤労を何よりの生きがいにして生きてきた今までの日本の農民たち、それに戦後の経済復興から高度経済成長を支えてきた会社人間の高齢期の姿がよく現れている。

### 《日々の暮らしの困窮度と老後の生活の収入源》

三好町の高齢者の経済状態ならびに、生活を支えている収入源について、設問1-⑤⑥で調査した。三好町の高齢者の場合、調査対象者全体の78.2%の人々が「余裕はないが不足はない」という。これに、「余裕がある」(9.1%)と答えたものを合わせると、全体の9割近くになる。これに対して「やや困難である」(9.6%)と「困難である」(1.0%)を合わせても1割近くに過ぎない。

ただ、この調査結果は高齢者が子ども夫婦の家計と全く切りはなされた生活をしているのではなく、彼らの7割近くのものが子ども夫婦と一緒に生活していることを念頭に入れておく必要がある。この点を充分考慮した上でいいうことは、三好町全体としてみれば、老後の生活において、経済的にはそれほど困窮している状態ではないことが確認できる。この点は、行政区ごとにみても男女別にみても大きな変化はみられない。



また、国際比較調査で行われた日本全体の調査結果でも、80%程度のものが、「それほど困っていない」と答えており、「困っている」と「少し困っている」とを合わせても20%程度である<sup>(9)</sup>から、全体としては、日本の高齢者の老後生活は、三好町と同じように、現在のところ高齢者なるがゆえに経済的には困窮しているものはきわめて少ないといえよう。ただ、今後日本においてもより一層人口の高齢化が進み、「老夫婦の世帯」や「一人暮らし」の高齢者が多くなったときには上述のような結果になるとはどうい考えられないことを付け加えておこう。

また、高齢者の家計を支えているものは何かを設問1-⑤で複数回答によって調べた。三好町では80%近くにもものが、「年金・恩給」をあげている。高齢者の生活を支えているものが、「年金・恩給」であることは、国際比較調査によって得られた日本全体の調査結果(81.2%)とほぼ一致している。三好町では「公的な年金」に続いて大きな割合を占めているのが「就業による収入」(19.8%)と「子どもの勤労収入」(19.8%)である。また、国際比較調査で行われた日本全体の調査結果では、「公的な年金」に続いて、大きなシェアを占めているのが「就業による収入」(34.1%)、それに続いて「預貯金の引き出し」(22.7%)となっている。時系列にみると、日本全体の調査結果では、「公的な年金」と「預貯金の引き出し」が増えているのに対し、「子どもからの援助」が減っている<sup>(10)</sup>。なお、三好町の調査について、「就業による収入」では、男女別にみると、男女間にかかなり大きな差がみられる。それは、男性では26.5%であるのに、女性では10.8%となっている。また、年齢別にみると、80才代になると「就業による収入」は激減している。

### 《健康状態》

三好町の高齢者の健康状態について、設問2-①②③で調査した。「比較的良い」が68.5%と、調査対象者全体の約7割のものが健康な状態にある。この結果について、国際比較調査で行われた日本全体の状況と比較してみると日本全体の調査では、「比較的良い」は50.7%と三好町の結果といくらか開きがみられる<sup>(11)</sup>。このことからいえば、三好町の今回の調査対象者は、全国的にみて、より健康的な人々が多いといえよう。

ただし、三好町の場合、年齢別にみると、60才代、70才代、80才代と年齢が高くなるに従って、「体調を崩しやすい」が22.9%→28.8%→38.1%と増えていることを留意する必要がある。

国際比較調査によれば、「比較的良い」がアメリカでは64.9%、イギリスでは60.9%となっていて、日本の高齢者と健康状態はそれほど大きな差は見られない。

なお、三好町の調査では設問2-②で、持病の有無について尋ねたところ、「ある」と答えたものは調査対象者全体の36.0%であった。ただ、持病のあるものも、60才代では33.3%で比較的少ないが、80才代になると、半分以上のもの(52.4%)が持病をもっている。年齢が高まるに従って、持病のある人は増えている。また、持病の「ある」と答えたものに設問2-③でどんな持病かを尋ねたところ、多い持病上位を3つあげると「高血圧」(23.4%)、「足腰が弱くなっていること」(23.4%)、「耳が聞こえにくくなっている」(22.8%)である。以上は、三好町における対象者の健康状態である。

### 《屋間、高齢者はどこで過ごすか》

高齢者が寝込むことのないようにするためには、高齢者自身が日々健康に心掛けなければならないことはいままでもない。とりわけ、屋内に閉じこもってしまって、体を動かさない人々は、一般に体力を弱めてしまうと言われているので、その点について設問3-③で、調査を行った。

三好町の場合、「屋内で過ごすことが多い」高齢者は、調査対象者全体の27.4%に及んでいる。それに対して、「屋外で過ごすことが多い」のは30.5%、「屋内・屋外半々ぐらい」が37.6%となっている。

三好町全体についていえば、調査対象者の多くは農業を営んでおり、畑仕事を好んで行っている人々であることもあって、調査対象者全体としては「屋内で過ごすことが多い」は27.4%と低くなっている。しかし、三好ヶ丘のように新しく行政区となって農業とは関係のない人ばかりのところでは、「屋内で過ごすことが多い」高齢者は44.0%にも達している。また、60才代から70才代、さらに80才代へと年齢が高まるに従って、「屋内で過ごすことが多い」人々の割合は高くなり、80才代では80才代全体の61.9%のものが「屋内で過ごすことが多い」と答えている。寝たきり老人を増やさないようにするためにも、高齢者をできるだけ屋外にもさそう工夫が、行政としても必要になろう。

### 《家事への従事状況》

設問3-②において、日用品の「買い物」、「炊事」、「洗濯」といった、家庭で暮らしていくために、どうしてもしなければならない家庭内での家事分担に高齢者がどの程度かわっているかを調べた。どの家事についても、三好町では、「家族の者がしている」が最も多く、その割合は「買い物」では71.1%、「炊事」では77.2%、「洗濯」では77.2%と、いずれも調査対象者の7割のものが、「家族の者がしている」と答えている。「自分がしている」ものは、調査対象者全体の25.4%に過ぎない。ただ、新しく行政区のできた三好ヶ丘のようなところでは、三好町全体の傾向と著しく異なり、「三好ヶ丘」では、「家族の者がしている」が56.0%、「自分でしている」が44.0%となっている。

また、家事全般については、日本では性別で大きく異なっていると考えられるので、この点についてみると、三好町の場合でも男女間にかなりおおきな差がみられる。「家族の者がしている」は男性では、男性全体の86.7%となっているのに対し、女性では49.4%となっている。

この点を、国際比較調査で行われた日本全体の動向と比較してみると、日本では、「主に、家族の者がしている」が64.0%、「自分がしている」は34.9%となっている。それに対して、欧米諸国では、「主に家族の者がしている」は、きわめて低く、アメリカで29.5%、イギリスで22.0%、ドイツで27.1%である。それに対して、「自分でしている」が欧米諸国では60%台～70%台となっている。また、男女間の性別のちがいを「買い物」に事例をとってみると、「自分でしている」は日本では男性が7.6%、女性では58.9%となっているのに対し、アメリカでは男性50.5%、女性76.8%というように、男女間にいくらかの差は見られるものの、日本のように大きな差は見られない<sup>(12)</sup>。欧米諸国では、男性の高齢者でも、かなり積極的に家事役割を担っていることが分かる。時系列でいうと、日本でも徐々にではあるが、「自分がしている」ものが増え、逆に「主に家族のものがしている」

の割合が減少している。もちろん、その背景には、老人夫婦のみの世帯や単独世帯などの増加など、家族形態が大きく変わりつつあることを忘れてはならない。その意味で、家事役割は、家族類型とも大きく関係しているといえよう。それぞれの家事を「自分がしている」の割合について家族類型別に調べてみても、単独世帯の高齢者は、日本、欧米諸国を問わず、いずれも家事を自分でやっているのが圧倒的である。それに対して、「夫婦のみの世帯」や「子どもと同居している世帯」、とくに、三世代家族の世帯では、「自分でやっている」高齢者の割合は相対的に低くなっている。

また、高齢者ばかりでなく、三好町の人びと全体の意識のなかにも、高齢者ほどではないにせよ、まだ性的役割分業の意識は根強い。この点は、三好町の行った平成7年度の住民意識調査からも把握することができる。上記の住民意識調査では「男は仕事、女は家庭」という性別によって社会的な役割や仕事を分担する考え方があります。これについて、あなたはどのように考えますか。次の中から一つだけ番号に○をつけてください。」という問いで調査が行われているが、それに対する調査結果は表7の通りである。

表7 性的役割について

N=1,954	(1) 同感するほうだ	(2) 同感する気持ちはある	(3) 自分の本心は同感 しないほうだ	(4) 同感しない ほうだ
全体	8.8%	45.1%	27.2%	10.4%
男性	12.2	50.7	19.0	10.5
女性	5.9	29.3	34.9	11.1
三好丘	8.3	37.1	29.9	15.5
年齢25～29才	3.5	39.2	28.1	18.1
45～49才	10.2	46.7	25.0	12.3
65～69才	11.9	58.3	17.9	6.0
70才以上	13.1	48.6	16.8	4.7

(5)「どちらでもない」(6)「その他」の選択数は省略した。

(出所)『平成7年度 住民意識調査報告書』三好町、P.59

「同感するほうだ」(8.8%)と「同感する気持ちはある」(45.1%)とを合わせた数値は53.9%である。また、全体としていいうことは年齢が高くなるにしたがって、性的役割分業を肯定する人びとが増加している。高齢者が家事へ積極的に従事することは、重要なことではあるが、住民意識調査の結果にみられるような性的役割分業の意識が高齢者、とりわけ男性の高齢者には大きく作用していることを留意しておく必要がある。

#### 《どのような趣味をもっているのか》

趣味について設問3-③にて尋ねたところ、三好町の調査対象者のうち、9割以上の者が、なんらかの趣味を持っている。この点は、那覇市において、老人クラブに入っている健全な高齢者を対象に行った調査結果でもなんらかの趣味をもっているものが、やはり、9割以上いたことからいえば、老人クラブでの調査である限り全国的な傾向であるといえよう。

そこで、三好町の高齢者に具体的に趣味の内容を複数回答で尋ねた結果、多くの者が行っている趣味を上位5つあげてみると、次のようになる。畑仕事38.6%、旅行33.5%、園芸28.9%、ゲートボールなど27.4%、カラオケ20.3%である。なお、注目すべきこととしては、男女間に著しく異なっているものがある。男性では、釣り（男性12.4%、女性0%）、囲碁・将棋（男性10.6%、女性0%）、ゴルフ（男性11.5%、女性4.8%）があげられる。また、女性では、手工芸（男性4.4%、女性16.9%）、お茶・お花（男性1.8%、女性13.3%）、踊り（男性0%、女性12.0%）があげられる。以上のことから言いうことは、三好町では高齢者の多くが、さまざまな趣味を持って自らの生きがいの一つにしていることがわかる。また、この数値は、高齢者を対象とする催しや講座を組むさいの参考になろう。

### 《子ども家族との接触・交流・その頻度》

高齢者が子どもや孫と日常的に接触し、交流することは、高齢者自身の生活にとって、充実感や精神的なハリにつながるだけでなく、もしもの時の身の回りの世話や病気のさいの介護も期待できるなど、彼らにとって、とても重要な側面である。従って、ここでは子どもや孫との接触、交流の実態を調べた。

三好町における今回の調査対象となった高齢者に、設問1-③で彼らの家族類型を調査したところ、先にも述べたように、約70%の者は「子ども夫婦と同居」しており、「自分たち夫婦のみ」は約20%、「一人暮らし」は、5.1%であった。

3-④の設問では、調査対象者全体の70%強の者が「既婚している子ども」と同居しており、「別居の子ども」が全体の53.3%「いる」と答えている。同居している子どもとの日常的な接触・交流があるのは当然のことであるので、ここでは、「別居子」との接触・交流の実態に焦点を置いて調べることにした。

別居子の有無を日本全体について、国際比較調査結果でみると、「別居子がいる」が日本では76.6%、アメリカで82.3%、イギリスで79%となっている<sup>(13)</sup>。日本に比べて、欧米諸国で別居率が高いのは、欧米諸国では一般に既婚した子どもとの同居率が、アメリカで1.0%、イギリスで0.8%というように、きわめて低いことと深く関係している。

三好町における今回の調査では、調査対象者の53.3%が「別居子がいる」と答えているから、国際比較調査によって行われた日本全体の数値76.6%に比べるとかなり低い。このことは三好町の場合、既婚している子どもとの同居率が国際比較調査によって行われた日本全体の調査対象者のそれよりもかなり高いためである。

別居子との接触・交流は高齢者と別居子との間の時間的距離と深く関係していると言われている<sup>(14)</sup>ので、その点について3-④で調べてみた。三好町の場合、「別居子」が「徒歩で行ける近所にいる」（18.3%）、「同じ集落内にいる」（7.1%）とを合わせた数値は、25.4%である。また、この合計値に「同じ市町村にいる」（20.8%）を加えた数値は46.2%となる。つまり、調査対象者の全体の半分近くのものが必要ならば毎日でも会うことのできる近距離に別居子が住んでいることになる。しかし、同じ三好町でも、新しく行政区となった三好ヶ丘などでは、「同居している」が36.0%、しかも毎日でも会える範囲の時間的距離に別居子がいるのはわずか12.0%にすぎず、三好町全体の動向と大きく異なっている。

ところで、日本全体ではどうかを確認するため国際比較調査結果でみると、毎日会うこ

とのできるところにいる別居子は、日本全体の場合、三好町の数値46.2%にかなり近い47.0%であり、アメリカ69.8%、イギリス65.7%、ドイツ64.8%と大きく異なっている。

以上のことからいうならば、日本では既婚の子どもと同居している高齢者が多いのに対し、欧米諸国の高齢者は、その6～7割が比較的容易に別居子の子ども家族と行き来できる条件を持っているといえる。つまり、三好町を含めて、日本の高齢者は、子どもとの接触・交流を「同居型」を中心として行っているのに対し、欧米諸国の高齢者は、子どもとの接触・交流を「近居型の別居居住型」によって行っているといえる。

また、高齢者が別居子と接触する頻度について設問3-⑤で具体的に調べてみると、三好町の場合、「ほとんど毎日」19.3%、「週に一回以上」13.7%で両者の合計は33.0%となっている。日本全体の調査結果を国際比較調査の結果によってみると「ほとんど毎日」と「週に1回以上」を合わせた合計は31.5%で、三好町の動向とほぼ一致している。それに対してアメリカ62.0%、イギリス66.2%、ドイツ60.6%というように<sup>(15)</sup>、別居子との接触頻度についていえば、別居子と会う頻度の高いアメリカやイギリスなどの欧米型と、頻度の低い日本を含めたアジア型とに分かれるといえよう。

なお、子どもや孫との交流は、顔を合わせて実際に会うことばかりでなく、電話によっても済ますことも可能である。このため、電話での交流についても設問3-⑤で調べた。そこで、「お子さんの中の誰かと電話で話すのは、どのようなであるか」を尋ねてみた。三好町の場合では、「ほとんど毎日」、「週に1回以上」といった頻繁な電話での交流は、合わせて25.4%である。これは実際に会う頻度とほぼ同じ数値となっている。さらに、高齢者と別居子との交流の頻度は、家族類型に深く関係していることも事実である。接触頻度の結果を家族類型との関連でいえば、「ほとんど毎日」と「週に一回以上」会う割合は、日本についていえば、多い順から「単独世帯＝一人暮らしの高齢者」、「老夫婦のみの世帯」「本人夫婦と未婚の子どもによる世帯」、「3世代家族の世帯」となっている。この傾向は、欧米諸国もアジア諸国も変わりはない。そのような意味で、三好町のように「既婚の子ども夫婦と一緒に同居している」高齢者の多いところでは、別居子との交流の頻度は、それだけ低くなる。

ところで、三好町で別居子が、どのようなときに親のところへ訪れてくるかを設問3-⑤で調べ、次のような結果を得た。頻度の多い上位3つをあげると以下のようなものである。多い順から①地区の祭、お盆、お彼岸、正月、法事などの行事のさい（50.8%）、②日常的に（36.5%）、③親が病気になったとき（21.8%）である。また、高齢者自らが別居子に会いに行く時は、どんなときかについても調べてみた。多い順から①日常的に（31.5%）、②地区の祭などのような行事があったとき（25.7%）、③孫などの誕生日など、別居子の家族に祝い事があったとき（17.3%）となっている。

なお、三好町では町全体が幾年かおきに町民に対して意識調査を実施しているが、昭和61年の調査ではつぎのような項目で調査が行われている。「老後の生活を考える場合、子どもと一緒に暮らすか、別に暮らすのが大きな問題になると思われます。あなたはどうかお望みですか。」という問いであるが、それに対する調査結果は表8の通りである。

表8 老後の同居・別居について

N=1,783	全体 (%)	年 齢 階 層 別 (%)			
		20~29才	40~49才	60~69才	70才以上
(1) 子どもと同居したい	60.0	56.1	53.2	68.1	79.8
(2) 別居するが、出来るだけ町内に住みたい	31.7	34.6	39.2	19.8	12.1
(3) 別居し町外に住みたい	3.7	5.1	2.4	3.4	4.0
(4) 施設に入居したい	3.3	3.0	3.7	5.2	2.0
(5) 無回答	1.3	1.2	1.5	3.4	2.0

(出所) 『昭和61年度 住民意識調査報告書』三好町, P.38

この結果によれば「子どもと同居したい」(60.0%)と「別居するが、出来るだけ町内に住みたい」(31.7%)とを合わせた数値は91.7%である。このことは、三好町の人びとの大部分が年齢をとわず、高齢者と子ども夫婦とは同居するのが望ましいか、さもなければ子ども夫婦の身近かなところに住んで、子どもたちと深いつながりのなかで老後を過ごしていきたいという意向を持っていることを示している。とりわけ、60才以上の年齢層の高齢者は子ども夫婦との同居を強く望んでいる。

#### 《老後における家族とのつき合い観》

高齢者が別居子とどのように接触し、交流し合うかは、先にも述べたように別居子との時間的距離、高齢者自身が過ごしている家族類型などの要因に規定されている。さらに、この点は高齢者が子どもや孫など、家族とのつき合いについて、高齢者自身がどのように考えているかという高齢者自身の家族とのつき合い観によっても大きなちがいがみられるものである。

そこで、設問3-⑥で、「高齢者が子どもや孫などの、家族とのつき合いについて、どのように考えているか」について調べた。三好町の場合、「いつも一緒に生活するのがよい」が52.3%、ついで、「時々会って食事や会話をする方がよい」が26.4%となっている。

ところで、日本全体の動向については、国際比較調査の結果によって比較してみると、最も多いのが「いつも一緒に生活するのがよい」が53.6%となっており、三好町の数値にきわめて近い。一方、欧米諸国では、「時々会って食事や会話をするのがよい」がもっとも多く、アメリカで72.7%、イギリスで73.2%となっている<sup>(16)</sup>。そのような意味で、日本も含めて儒教文化圏といわれた東アジア地域では、「子どもと一緒に生活したい」と考えている高齢者が多く、そのつき合い観は「同居型の交流」を望んでいるといえよう。これに対し、欧米諸国では一般的に子どもとは別居しながら接触を保つという「別居型交流」を望んでいる。もっとも、日本でも、この10年間の動きを追ってみると、「いつも一緒に生活するのがよい」が減少し、「時々会って食事や会話をするのがよい」が増える傾向にある。なお、家族とのつき合い観は、高齢者が暮らしている家族類型とも深い関係がある。未婚・既婚を問わず、子どもと同居している世帯の高齢者、とくに三世代家族のなかで暮らしている高齢者は、子どもとは「いつも一緒に生活するのがよい」とするものが多い。

しかし、日本でも、三世代家族以外の家族類型の世帯で暮らしている高齢者では、「時々会って食事や会話をするのがよい」がもっとも多い。三好町の今回の調査の場合でも、新しく行政区としてつくられた三好ヶ丘などのニュータウンのような「自分たち老夫婦のみ」の家族類型が多いところでは、事実、「時々会って食事や会話をするのがよい」が最も多くなっている。

### 《近所づきあいの現状》

老年期にある人びとは、さまざまな人間関係の絆のなかで、自らの生きがいを維持していくものである。その人間関係は、血縁を中心とする家族・親族との関係、近隣の人びととの関係、地域で展開されるさまざまなグループ活動、地域行事への参加などによってつくりあげられる。家族との関係は先に取り上げたので、それ以外のものについて順次明らかにしておこう。

まず、近隣関係について、設問3-⑦、⑧で高齢者がどのような近所づき合いをしているかを調べた。設問3-⑦「近所の人びととどのようなつきあいをしているか」について調べたところ、「挨拶や立ち話をする」が最も多く、調査対象者全体の82.7%が行っている。次に多いのが、「お茶や食事を一緒にする」(27.4%)、「病気の時に助け合う」(23.4%)、「おかずのおすそ分けをする」(20.8%)と続く。ただし、近所づきあいの具体的な内容については、男女間にかかなりの違いがみられる。たとえば、「お茶や食事を一緒にする」では、男性19.5%であるのに女性が38.6%となっており、また、「おかずのおすそ分けをする」では男性15.9%であるのに、女性は27.7%となっているなど男女間に大きく差異のあるものも多い。また、年齢別にみると60才代、70才代に比べると80才代の高齢者では、近所づきあいが低下することが認められる。

また、日本全体の動向を国際比較調査の結果によって見てみると、具体的な近所づきあいは、次のようになる。多い順から上位三つをあげると、「物のやりとりをする」(67.1%)、「立ち話をする」(48.9%)「お茶やお食事を一緒にする」(30.9%)である。これに対して、アメリカやイギリスでは、最も多いのが「病気の時に助け合いをする」(アメリカ53.4%、イギリス50.0%)、「悩み事を相談する」(アメリカ45.4%、イギリス44.8%)である<sup>(17)</sup>。しかし、三好町の今回の調査結果でも明らかにしたように、これらの項目については、男女の間に大きな差がみられることは留意しておかなければならない。たとえば、日本全体についていえば「お茶や食事を一緒にする」については、男性では18.6%であるのに、女性は39.6%となっている。

つぎに、設問3-⑧で近所づきあいの有無ならびにつき合いの頻度について調べたところ、三好町では「毎日」32.5%、「週に数回」39.1%、「週に一回ぐらい」13.7%が主なものとなっており、この3つの数値を合わせた85.3%が一応近所づきあいの「ある」人びとということになろう。日本全体については、国際比較調査結果によって確認すると、日本も欧米諸国も、「近所づきあい」の「ある」と答えた数値が70～80%台であるから、三好町の数値とほぼ一致する。ところで、性別について、「近所づきあいがあるかどうか」を国際比較調査で日本全体について調べてみると、男性では「ある」が66.3%、女性では83.0%となっており、女性のほうが近所づきあいが活発であることを確認することができる。三好町の場合は、「近所づきあいがある」のは男性で84.1%、女性で86.7%となって

おり、男女間に日本全体のところでみた数値よりは、大きな開きはみられない。この点については、男性の調査対象者はふるさとの三好町（三好村）で生まれ育ったものが圧倒的で、幼いときからの知り合いどうしであることによるものと考えられる。

#### 《友人・知人関係について》

設問3-⑨では、「家族以外の人で相談し合える親しい友人がいるかどうか」を調べた。三好町についていえば調査対象者全体の約70%が「親しい友人がいる」と答えている。その場合、「同性の友人がいる」51.3%と圧倒的に多く、それについて「同性と異性との友人がいる」14.7%であった。「親しい友人はいない」は21.8%である。この数値から、三好町では、家族以外の人で相談し合える親しい友人を高齢者は、かなりの人びとが持っていることを確認することができる。もっとも、「親しい友人がいるかどうか」という設問では、男女間に内容的にはかなり大きな差異がみられる。男性の場合、「同性の友人がいる」42.5%、「同性と異性の友人がいる」22.1%となっている。それに対して、女性の場合には、「同性の友人がいる」63.9%となっていて、男性の数値より20%近くも高い。しかし、「同性と異性の友人がいる」4.8%では、男性の数値より20%近く低くなっている。

ところで、家族以外に相談事のできる親しい友人の有無について国際比較調査の日本の結果と比べてみると、日本については「あり」が70.5%となっている。三好町の「あり」にきわめて近い数値である。これに対して、欧米諸国では「あり」がアメリカ91.7%、ドイツ85.4%、イギリス75.0%となっていて、日本より欧米諸国の方が高い数値となっている。また、日本では、「同性の友人がいる」66.0%、「同性と異性の友人がある」9.0%であるのに対して、アメリカやドイツでは「同性と異性の友人がいる」が60%台で最も多く、「同性の友人がいる」はアメリカで1.6%、ドイツでは0.7%ときわめて僅かであり<sup>(18)</sup>、友人関係の中身には著しいちがいがみられる。わが国のようにアジアの儒教文化圏だったところでは、高齢者の友人関係には、まだかなり強く性役割規範が投影されているといえよう。

#### 《地域社会での行事・サークル活動への参加状況》

ここでは、高齢者が地域で行われている行事やグループ活動などへの参加状況を設問3-⑩で調べてみた。具体的には祭など地域の行事、老人クラブの集まり、趣味や学習などのグループ活動、地域での奉仕活動への参加状況についてである。三好町での調査では、祭などの地域行事に「いつも参加する」37.6%、「時々参加する」35.0%、両者を合わせて72.6%となる。老人クラブの集まりに「いつも参加する」64.5%、「時々参加する」24.9%、両者を合わせて89.4%、調査対象者全体の9割のものが参加している。また、趣味や学習などのグループ活動に「いつも参加する」33.0%、「時々参加する」20.3%合わせて53.3%となっている。地域での奉仕活動などに「いつも参加する」54.3%、「時々参加する」25.4%、合わせて79.7%である。4項目のうちの参加状況は三好町では極めて高率である。

そこで、国際比較調査の結果によって、日本の場合をみると、老人クラブの集まりなど、老人のグループ活動への参加状況は24.5%（「いつも参加する」と「時々参加する」を合わせた数値）、奉仕活動など地域のボランティア活動では、27.3%となっていて、いずれ



も三好町の参加状況とは、著しい差が見られる。これは、三好町の調査結果で老人クラブの集まりに対して、調査対象者全体の9割近くの者が参加していると答えていることから推定されるように、今回の三好町での調査では調査対象者を老人クラブへ依頼した結果、おそらく老人クラブのアクティブな人びとが選ばれたためだと考えられる。しかし、このように調査対象にかたよりがみられるとはいえ、老人クラブの集まりや地域のボランティア活動において活発に行われている人びとというものは、そのようなアクティブな高齢者が活動し得るような背景、より広くいうならば、三好町において高齢者に対する広い意味での生涯教育が、深く浸透している結果であるともいえる。

また、三好町の今回の調査で、祭などの地域の行事、老人クラブへの集い、趣味や学習などのグループ活動、地域での奉仕活動の参加状況を年齢階層別にみると、最も参加状況の活発な高齢者の年代は70才代であり、その次に60才代と続いている。80才代になると、どの項目をみても参加率は著しく低下している。この点については60才代の多くがまだ就業していること、それに対して、80才代になると体力が弱り、参加する気力を失っているものが多いからであろう。なお、男女別では、「いつも参加する」という選択肢だけをとると、女性のほうが男性に比べて参加度が高い。ただし、継続的に行わなければならない趣味学習などのグループ活動だけは、女性の参加率が男性のそれより低くなっている。この点は、日本の生活慣行となっている性別役割分業が女性の参加を妨げているのではないかと考えられる。

なお、三好町の住民意識調査には地域での諸活動について参加の有無を尋ねた調査があるので、付記しておこう。平成7年三好町の行った住民意識調査に、「あなたは、次のような地域での活動に参加したことがありますか。該当するものすべて選んで番号に○をつけて下さい。」という問いがあるが、その調査結果は表9の通りである。

表9 地域での諸活動について

N=3,545	(%)	(%)	(%)	年 齢 階 層 (%)		
	全 体	男	女	45~49才	65~69才	70才以上
1、自治会・町内会などの活動	47.1	53.0	43.1	26.5	23.4	19.6
2、PTAの役員・子ども会の活動	32.9	21.9	44.4	25.5	4.2	8.0
3、高齢者や障害児のためのボランティア	4.8	2.1	7.0	2.2	3.5	3.7
4、婦人会・老人会の団体活動	17.7	7.3	27.4	9.3	23.4	30.7
5、趣味・学習のための活動	21.6	13.1	30.2	11.2	14.9	14.7
6、スポーツ活動	23.5	26.2	22.5	13.0	6.4	5.5
7、地域での外国人との交流	2.0	2.1	2.2	1.7	18.4	16.0
8、どれにも参加したことがない	25.7	29.4	22.7	8.2	0	0

「消費生活や環境保護などの活動」「その他」は数値が小さいので省略

(出所) 『平成7年度 住民意識調査報告書』三好町.P.94

この結果のうち年齢階層65~69才、70才以上のところを注目すると、この表9に示されるに示される数値は、老人クラブのアクティブだけの数値ではない、ごく一般的な高齢者

が地域の諸活動に参加している状況を捉える一つの資料となる。この数値は、国際比較調査のさい行われた日本全体の数値にはほぼ一致している。

### 《高齢期の「イメージ」について》

高齢期における生活意識を把握するために、いくつかの設問をたて調査した。高齢者の家族とのつきあい観については先に明らかにしたので、ここでは、「高齢」イメージ、高齢になって感じていること、人生にとって何が大切だと思うか、身の廻りのことができなくなったとき、自分の介護を依頼できるかどうかの有無などについても調査した。

まず、設問4-①で、老人になったと思う年齢について調べたところ、もっとも多くの人びとが「70才以上」(41.6%)、ついで「65才以上」(32.5%)、還暦の年「60才以上」と答えた者は調査対象者全体のわずか3.6%にすぎなかった。70才まで、ほとんどの人びとが何らかの形で健康で働くことができているからである。また、現実に健康で働いているからでもあろう。従って、60才代を「老人」と考える人びとが高齢者の中では1/3にすぎず、70才代以上を高齢者と考える風潮が深まっているように思われる。

もっとも、「老人になったと思う年齢」については男女間にかかなりの差がみられる。男性の場合、「65才以上」「70才以上」を合わせた数値は男性対象者の79.6%であるのに対し、女性の場合では66.2%であった。女性の場合には「75才以上」と答えた者が21.7%もあり、この点は男性の場合と著しい違いである。

また、設問4-②は、「高齢になる」ことへのイメージを調べたものである。三好町の場合、「寂しさを感じる」が全体の44.7%ともっとも多い。けれども、高齢になって「いろいろなことができるようになった」が24.9%もあり調査対象者全体の1/4が高齢期を積極的に生きようとしてしていることがよく理解される。とくに今まで日々勤めていて、やりたいことのできなかった男性にこの意識は強く見られる。この点は、「いろいろなことができるようになった」が男性では33.6%であるのに対し、女性は13.3%となっている数値がよく示しているように思われる。なお、「いろいろなことが出来るようになる」と前向きに高齢期をとらえているのは、60才代、70才代では、25.0%、27.5%であるのに対し、80才代になると著しく低くなり、14.3%になっているように年齢階層によってもかなり大きな差が見られる。また、この点は、健常な高齢者そうでない高齢者との間にも差がみられる。ここでは、現在の健康状態を尋ねた際、「比較的良い」を健常者とし、「体調を崩しやすい」と「寝込むことが多い」とを合わせた高齢者を健常でない者としてグループ分けすると、「いろいろなことが出来るようになる」の数値は健常者の場合は、28.1%であるのに対し、健常でない者の場合は、17.7%とかなりの差が認められる。従って、「高齢」のイメージは、年齢、性別、健康状態、家族類型などと深く絡んで、つくられているものであることが理解される。三好町で調査対象とした高齢者についていえば、全体的に「高齢イメージ」を、死や、恐ろしさといったどちらかといえば、暗いイメージで捉えているものは極めて少ない。

### 《人生で一番大切なものは何か》

設問4-③で「人生で一番大切なもの」について調査したところ、三好町では「家族・子ども」が調査対象者全体の53.8%と圧倒的に多く、次に「健康」が36.0%で、これら2

つで89.8%と大部分を占めている。

ところが、「人生で2番目に大切なもの」については、「家族・子ども」「健康」のほか、それぞれ数%ずつにすぎないが、「近所づきあい」「友人・仲間」「宗教・信仰」の選択肢が選ばれるようになっている。この特徴については、行政区、年齢、男女別、健康状態の違いを問わず、一様に見られるものである。

そこで、日本全体を示す国際比較調査結果によって、三好町の調査結果を日本全体の調査と比較しておこう。この国際比較調査では、三好町の調査の際、高い数値を示した「健康」という選択肢がないこと、「地域社会」という項目に代わって「国家」という選択肢が入っているので、単純に比較することはできないが、あえて国際比較調査を利用するならば、次のようになる。この調査でも、日本の場合についていえば、「家族・子ども」が圧倒的で88.2%を占め、残りの選択肢は数値の多いものでも4%以下のものばかりである。このように「家族・子ども」が1位を占めているのは、アメリカ、イギリス、ドイツなど欧米諸国でも同じことで、アメリカでは76.8%、イギリスでは83.0%、ドイツでは79.0%となっている。また、「人生で2番目に大切なもの」については、国際比較調査によれば、国ごとに著しい違いが見られる。日本の場合についていえば、「2番目に大切なもの」となっているのは、多い順から三つの選択肢をあげると、「財産」37.1%、「近所づきあい」22.2%、「友人・仲間」19.8%となっている。これに対して、アメリカの場合、「宗教・信仰」37.3%「友人・仲間」25.4%、「家族・子ども」14.7%となっている。また、イギリスの場合、「友人・仲間」37.0%、「宗教・信仰」20.0%、「財産」12.8%となっていて、国によって著しい差がみられる<sup>(9)</sup>。これら「人生にとって大切なもの」というのは、高齢者、個々人の価値観の表われであると共に、その高齢者が生きてきたその国の文化の表われであるといえよう。

#### 《気軽に相談できる人の有無とその相手》

また、設問4-④にて「悩みや心配事がある場合、気軽に相談できる人はいるか」を調査した。三好町の場合、「いる」と答えた者は全調査対象者の86.8%であった。圧倒的に「気軽に相談できる人」がいて、彼らは孤独に陥ることなく日々を送っていることがよくわかる。ただし、男女間では若干の差が見られた。男性の場合、「いる」84.1%、「いない」10.6%であるのに対し、女性の場合、「いる」90.4%、「いない」が4.8%となっていて、女性の方が「相談できる人」が多いことを示している。年齢階層、行政区間には差は見られない。

そこで、「いる」と答えた方々に設問4-⑤で「相談できる人は誰か」を調べてみた。高い数値を示したものの3つをあげると、「息子」51.8%がもっとも多く、ついで「娘」44.2%、「兄弟姉妹」42.6%といずれも血縁の人びとである。この場合、男女間は、いくらか差異がみられる。同じように高い数値を示したものの男女それぞれ三つずつあげると、男性の場合は、「息子」49.6%、「娘」39.8%、「兄弟姉妹」34.5%となっているのに対し、女性の場合は「息子」54.2%、「兄弟姉妹」53.0%、「娘」49.4%となっている。あげられている選択肢自体は、男女いずれも同じであるがその数値の大きさについては、かなりの差が見られる。また、年齢階層についていえば、80才代では「兄弟姉妹」の数値は著しく低くなっている。

以上、三好町の調査結果を日本全体の動向と比べてみるため、国際比較調査結果をみると、次のような点が明らかになる。もっとも、国際比較調査では「気軽に相談できる人」の選択肢として、①配偶者、②同居している子ども、③別居している子ども、④それ以外の家族・親族、⑤親しい友人・知人、⑥その他、⑦あてに出来る人がいない、という7つがあげられていて、三好町の調査であげた選択肢とは、かなり異なっており、単純に比較することはできないが、一応、傾向を把握する程度ならば充分利用できる。

この調査によれば、「配偶者」と答えた者が、殆どどの国でもっとも数値が高く、日本では70.1%、アメリカ41.8%、イギリス36.6%となっている<sup>(20)</sup>ことは、三好町の調査では「配偶者」の選択肢がないだけに重視する必要がある。日本は「配偶者」に期待している割合が他の国々に比べて、極めて高い国である。そのような意味では三好町の調査においても、選択肢に「配偶者」を入れておいたならば、配偶者を選んだものは、もっとも多かったはずである。それに対して欧米諸国では、「配偶者」よりも「同居しているか、別居しているか」は別として、子どもに話を聞いてもらったり、相談にのってもらおうと思っている高齢者の割合は高い。例えば、「別居している子ども」に相談にのってもらおうとしている高齢者の数値は、アメリカでは49.9%となっているし、イギリスでは41.8%となっていていずれも「配偶者」の数値より高い。

この点は、男女間の数値をみると、よりはっきりする。男性では、各国とも「配偶者」をあげるのが圧倒的である。とくに日本の男性の86.6%は「配偶者」をあげており、他の国々よりもきわめて高い。(アメリカ60.1%、イギリス52.4%)。ところが、女性では、日本が「配偶者」をあげている比率は各国に比べて高いが、日本だけについてみても、「配偶者」より「子ども」のほうが高い数値を占めている。子どもとの居住形態を別にすれば、「配偶者」より「子ども」に期待している割合は、女性の方がはるかに高い。妻が夫に相談にのってくれる人として期待をかけている割合は、日本では、55.5%、アメリカでは29.4%、イギリスでは24.5%と夫に対する期待は、夫が妻に期待をかけている数値に比べればそれほど高くない<sup>(21)</sup>。

また、三好町における今回の調査で「気軽に相談する人はいない」と答えた者に、設問4-⑥にて「気軽に相談できる人が現在はいないが、相談したいと思っている人は、だれがよいか」を尋ねたところ、「娘」「息子」「兄弟・姉妹」があげられており、「現実相談できる人がいる」と答えた人びとの傾向と、それほど大きな違いは認められなかった。やはり、血縁の人びとに大きな期待をかけているのである。

#### 《自分の介護を頼みたいと期待している人》

高齢者の多くは、日々の生活において何らかのサポートを多くの人びとから受けながら、生活していくものである。そのサポートは大別すると、情緒的・精神的なサポートと、直接的な援助、金銭的な援助などの手段的なサポートがある。今回の三好町の調査では、前者の情緒的・精神的なサポートとしての実態を把握するために、心配事や悩み事が出来たときに話を聞いたり、相談にのってくれる人びとの有無、さらには、そのような人がいた場合には誰かについて調べた。それが設問4-④⑤⑥での調査である。また、後者の直接的な援助で期待されている人びとを知るために設問4-⑦で調査を行い、その点を明らかにしようとした。今回の調査では、金銭的な援助の現状把握については調査を割愛した。

もっとも、高齢者へのサポートは、サポートを提供する側と、サポートを受ける側との、二つの側面が本来ならば明らかにされる必要があるが、今回の調査（設問4-⑦）では、サポートを受ける側だけに限定して調査を行った。従って、設問4-⑦の調査結果は介護が実際に行われるレベルではなく、あくまでサポートを受ける側の期待のレベルであることを留意しておこう。「あなたが自分の身の回りのことができなくなったとき、だれに介護を頼むか」について尋ねたところ、三好町の調査では「第1に頼みたい人」として、圧倒的に多くの者が「同居している子ども」（65.0%）と答えている。「別居している子ども」は13.2%に過ぎない。「同居している子ども」（65.0%）とという数値は、設問3-④で「同居の子どもがいる」としてあげられた66.5%の数値にほぼ一致する。

また、「二番目に頼みたい人」については、「別居している子ども」36.0%がもっとも多く、それに次いで、「近くに住む親族」20.8%となっている。「二番目に頼みたい人」では、男女間に若干の差異が見られる。とりわけ女性のほうで、「家政婦・ホームヘルパーさん」14.5%、「地域のボランティア」9.6%など地域社会の福祉組織に介助を依頼したいと考えている人びとがみられることである。なお、「三番目に頼みたい人」について尋ねると、「近くに住む親族」20.8%、それについて「家政婦・ホームヘルパーさん」16.8%となっている。したがって、今回の三好町の調査で確認しうるのは、現在の三好町の場合、「介護」に最初から「家政婦・ホームヘルパー」が期待されているのではなく、まず、「同居の子どもたち」が介護してもらいたい人として期待され、それがいないか不都合の場合に「別居する子ども」があてにされ、それもいないか不都合な場合には「近くに住む親族」が考慮され、それも期待できず難しい時に、初めて「家政婦・ホームヘルパー」で対処したいと一般的には考えられているといえよう。

ところで、上記の三好町での調査結果の特徴を把握するため、国際比較調査で行われた日本全体の動向と比較しておこう。国際比較調査では、「病気で寝込んだ時、世話してくれる人は誰か」との問いに対して、①配偶者、②同居の子ども、③別居の子ども、④それ以外の家族・親族、⑤親しい友人・知人、⑥その他、⑦いない、という7つの選択肢が設けられている。三好町の調査の場合と国際比較調査と選択肢で大きく異なっている点は、三好町の調査では、選択肢に「配偶者」が無かったことである。

この国際比較調査結果によれば、日本では全調査対象者の69.1%が「配偶者」が世話してくれると期待している。アメリカでは43.6%、イギリスでは41.6%となっていて、「配偶者」の数値はどの選択肢よりももっとも高い。とくに日本では、「配偶者」が世話してくれると思っている者が約7割も占め、圧倒的に多い。この国際比較調査では、日本の場合、「配偶者」のつぎに、「同居の子ども」42.9%、それに次いで「別居の子ども」31.0%と続いている。これに対して、アメリカやイギリスでは、配偶者について多いのが「別居の子ども」で、それぞれ、アメリカで37.7%、イギリスで35.3%となっている<sup>(22)</sup>。つまり、日本では「配偶者」それに次いで「同居の子ども」となっているのに対し、アメリカやイギリスなど欧米諸国では、「配偶者」、「別居の子ども」となっており、そのほかにも、「それ以外の家族・親族」「親しい友人・知人」も介護を依頼する対象者として期待している人びとの範囲は広い。また、男女別にみると男性の高齢者は、各国とも配偶者に期待している割合が他の選択肢に比べて高い。その中でも日本の場合は、88.1%と極めて高い。アメリカの男性では65.0%、イギリスの男性では59.3%となっている。ところが、女性の

高齢者は「配偶者」よりも「子ども」に期待している割合の方が多い。それぞれの国の女性の場合、もっとも高い数値を示している選択肢は、日本では、「同居の子ども」52.7%、アメリカでは「別居の子ども」41.9%、イギリスでは「別居の子ども」42.1%となっている。子どもが「同居の子ども」か、「別居の子ども」とそれぞれの国によって異なっているのはそれぞれの国における老親と子どもとの居住形態の違いによる。つまり、女性の場合、同居中心の日本では、「同居している子ども」にもっとも多く期待しているのに対し、別居中心のアメリカやイギリスなど欧米諸国の場合には、「別居している子ども」に期待の割合が高くなっているといえる。

ところで、三好町の今回の調査では先にも述べたように「配偶者」という選択肢がなかったため、この点を平成7年に三好町が行った「住民意識調査」の結果にて埋め合わせておこう。この調査は、高齢者だけを対象になされたものではないが、年齢階層別にも整理されているので、充分資料として役立つことのできるものである。「高齢化社会を迎え、人生80年時代といわれています。もし、あなたが寝たきりになって介護を必要とするようになったら、誰に介護を頼みたいですか。つぎのなかから一つだけ選んで番号に○をつけて下さい。」という問いであるが、その調査結果は表10の通りである。

表10 介護を誰に頼むか

N=1,948	全体	男%	女%	年 齢 階 層 %			
				25~29才	45~49才	65~69才	70才以上
1. 配偶者	44.6	59.9	31.3	46.0	44.7	42.2	30.8
2. 娘	13.3	5.3	20.7	15.2	13.1	14.5	13.1
3. 息子	2.4	2.5	2.3	2.0	1.2	6.0	6.5
4. 息子の妻	4.6	3.6	5.6	0.0	2.9	16.9	25.2
5. ホームヘルパー・家政婦	5.3	4.5	5.9	5.6	7.4	2.4	4.7
6. 老人病院・老人ホームに入る	24.6	19.1	29.6	25.3	24.2	16.9	18.7

「その他の親族」、「地域の人・ボランティア」「その他」は数値が小さいので省略した

(出所) 『平成7年度 住民意識調査報告書』三好町.P.71

表10によれば、介護者として「配偶者」を考えている人びとは44.6%と、調査対象者全体の約半数に及んでいて、この数値は、他のいかなる選択肢よりもきわだって高い。男性だけについていえば、「配偶者」とした人びとはきわめて多く、男性調査対象者のうち6割が「配偶者」を選んでいる。もっとも、女性では、「配偶者」としたものが数値としてはもっとも高いが、その数値は男性の半分程度の31.3%で、「病院・老人ホームに入る」(29.6%)や、「娘」(20.7%)にも、広く選択肢が広がっている。また、すべての年齢層を通じて「配偶者」の割合がもっとも高いが、男性のほうは59.9%、女性のほうは31.3%という数値が示しているように妻は夫ほどには配偶者に頼ろうとはしていない。もう少し積極的にいえば、夫は「配偶者」である妻をもっとも大切な介護者だと考えているのに対し、妻のほうでは日常生活での夫の生活態度などから推測して「配偶者」である夫に全面的には介護してもらえとは思っておらず、むしろ「娘」や「息子の妻」に対してより多

くの期待を抱いているといえよう。また、年齢が高まるに従って、「息子の妻」の割合が高くなっているのは、息子夫婦と同居している高齢者の実際の介護者として「息子の妻」が重要な役割を担っていることを示している。とりわけ、年齢階層70才以上では「配偶者」(30.8%)の数値に「息子の妻」(25.2%)の数値が他の年齢階層に比べて著しく接近しているが、それは仮りに妻が健在であっても高齢のため、介護に耐えられなくなりつつあるという状況を表しているものと考えられる。

附表：行政区別人口・年齢階層別割合(1996年現在)

集落名	集落人口(人)	0~14才(%)	15~64才(%)	65以上(%)	平均年齢
新屋	3,681	21.1	72.6	6.3	33.7 才
三好上	4,792	15.1	75.7	9.2	37.4
三好下	3,604	16.2	76.0	7.8	35.5
西一色	743	12.7	74.9	12.4	38.9
福田	1,441	16.8	70.6	12.6	38.2
明智上	1,208	17.9	76.7	5.4	37.5
明智下	999	14.9	72.4	12.7	38.5
打越	2,326	15.5	70.7	13.8	38.5
勘生	3,312	14.6	75.2	10.2	37.6
福谷	2,505	15.5	75.0	9.5	36.5
黒笹	970	19.4	68.4	12.2	36.1
東山	2,351	13.9	78.4	7.7	36.4
高嶺	146	24.0	71.2	4.8	36.3
好住	390	23.6	70.2	6.2	32.2
中島	695	14.1	75.7	10.2	38.6
ひばりヶ丘	477	26.0	73.4	0.6	26.6
あみだ堂	401	11.5	81.5	7.0	37.7
山伏	221	15.8	71.5	12.7	39.1
平池	428	9.6	81.3	10.1	41.2
上ヶ池	427	14.5	76.8	8.7	39.2
三好丘	3,359	28.7	69.2	2.1	28.1
三好丘緑	1,713	26.7	69.2	4.1	29.3
三好丘旭	1,824	28.2	69.4	2.4	26.8
三好丘桜	2,013	30.9	66.6	2.5	27.4
全体	40,026	19.0	73.1	7.9	34.7

(出所) 三好町資料より作成

注

- 1) K.Dychtwald, Age Wave, New York, 1989, 田名部昭・田辺ナナ子 訳, 『エイジ・ウェーブ』創知社, 1992年, PP.52-53.
- 2) 総務庁『高齢社会白書—平成8年版』1996年, PP.33—37.
- 3) 愛知大学中部地方産業研究所, 『都市近郊地域の経済と社会』愛知大学, 1991年 PP, 124-132.
- 4) 愛知大学中部地方産業研究所, 前掲書, PP.31-35.
- 5) 三好町, 『第4次三好町総合計画 推進計画』1994年, P.17.
- 6) 三好町, 『第3次三好町総合計画』1983年, P.14.
- 7) 総務庁長官官房老人対策室編, 『老人の生活と意識—第3回国際比較調査結果報告書』1992年, 中央法規, P.12.
- 8) 同上, P.120.
- 9) 同上, P.54.
- 10) 同上, P.53.
- 11) 同上, P.13.
- 12) 同上, PP.74-76.
- 13) 同上, P.94.
- 14) Peter Townsend, The Family Life of People :an Inquiry in East London, Pelican Books, 1963 山室周平監訳, 『居宅老人の生活と親族網：戦後東ロンドンにおける実証的研究』垣内出版, 1974年, PP.49-54.
- 15) 総務庁長官官房老人対策室編, 前掲書, P.96.
- 16) 同上, P.102.
- 17) 同上, P.150.
- 18) 同上, PP.156-157.
- 19) 同上, PP.196-199.
- 20) 同上, P.110.
- 21) 同上, PP.111-112.
- 22) 同上, PP.108-109.

本稿は文部省科学研究費（基礎研究：A2）による研究成果の一部である。



近郊農村における高齢者の生活と意識

高齢者の日常生活に関する調査

1. あなたの現在の状況についてお伺いします。

① 年齢は 満  歳 性別は 1. 男 2. 女

② 生まれ育った所は 1. 三好町 2. 県内 3. 県外

1-①						(%)		1-②				(%)		
	全 体		男		女			(1)	(2)	(3)		(1)	(2)	(3)
60才代	101人	51.2%	57人	50.4%	44人	53.0%	全体	50.3	31.5	16.2				
70才代	80	40.6	51	44.3	29	27.0	三好ヶ丘など	4.0	56.0	40.0				
80才以上	16	8.2	6	5.3	10	12.0	男	62.8	20.4	15.9				
合計	197	100.0	114	100.0	83	100.0	女	33.7	45.8	16.9				
性別	197	100.0	114	57.9	83	42.1								

③ あなたと一緒に暮らしている家族は〔( )内はあてはまる方に○を〕

- |                        |            |
|------------------------|------------|
| 1. 自分と子ども家族(息子方・娘方)    | 2. 一人暮らし   |
| 3. 自分達夫婦と子ども家族(息子方・娘方) | 4. 自分達夫婦のみ |
| 5. その他( )              |            |

1-③	(%)				
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
全体	33.5	5.1	36.0	17.8	6.1
三好ヶ丘など	20.0	24.0	16.0	32.0	8.0
男	27.4	0	43.4	24.8	2.7
女	42.2	12.0	26.5	8.4	9.6

1-④ お仕事は 1. している 2. していない

・そのお仕事に○印を

- |                        |                   |                |
|------------------------|-------------------|----------------|
| 1. 勤労者(会社員・公務員・教師・大工等) | 2. 専門職(医師・弁護士等)   | 3. 自営業(農業・商業等) |
| 4. 会社・団体等の役員           | 5. 家内職(染色・陶工・織物等) |                |
| 6. その他の仕事( )           |                   |                |

1-④	(%)								
	全体	三好ヶ丘など	男	女	60才代	70才代	80才以上	健常者	健常でない人
(1)	48.7	4.0	54.9	39.8	54.2	51.3	14.3	53.3	38.7
(2)	49.2	96.0	43.4	57.8	44.8	45.0	85.7	45.2	58.1

	(%)						
	全体	三好ヶ丘など	男	女	60才代	70才代	80才以上
(1)	7.6	0	12.4	1.2	9.4	7.5	0
(2)	0	0	0	0	0	0	0
(3)	33.0	0	36.3	27.7	35.4	35.0	14.3
(4)	1.0	4.0	0.9	1.2	1.0	1.3	0
(5)	1.5	0	0.9	2.4	2.1	1.3	0
(6)	4.6	0	4.4	4.8	5.2	3.8	4.8

戸 谷 修

⑤ あなたの生活費等の家計を支えている主な収入は(○印は2つまで)

1. 勤労収入	2. 子供の勤労収入	3. 年金・恩給	4. 生活保護
5. 家賃・土地代等	6. 預貯金	7. 仕送り	
8. その他( )			

⑥ 現在の経済的な状況は

1. 余裕がある	2. 余裕はないが不足もない	3. やや困難	4. 困難
----------	----------------	---------	-------

1-⑤

(%)

	全体	三軒ヶ丘など	男	女	60才代	70才代	80才以上
(1)	19.8	8.0	26.5	10.8	22.9	20.0	4.8
(2)	19.8	8.0	19.5	20.5	16.7	18.8	38.1
(3)	79.7	96.0	77.0	83.1	72.9	86.3	85.7
(4)	0	0	0	0	0	0	0
(5)	8.6	0	11.5	4.8	9.4	8.8	4.8
(6)	10.2	4.0	9.7	9.6	8.3	12.5	9.5
(7)	0.5	4.0	0.9	0	0	0	4.8
(8)	1.5	0	0.9	2.4	1.0	2.5	0

1-⑥

(%)

	(1)	(2)	(3)	(4)
全体	9.1	78.2	9.6	1.0
男	8.8	76.1	11.5	1.8
女	9.6	80.7	7.2	0
健康者	7.4	85.9	5.2	0
健康でない人	12.9	61.3	19.4	3.2

2. あなたの健康状態についてお伺いします。

① 現在の健康状態は

1. 比較的良好	2. 体調をくずしやすい	3. 寝込むことが多い
----------	--------------	-------------

② 持病は

1. ない	2. ある	→ 持病名は
-------	-------	--------

③ 自覚症状は(いくつでも○印を)

1. 特になし	2. 目が見えにくい	3. 耳が聞こえにくい	4. 物忘れがひどい
5. 食欲がない	6. よく眠れない	7. 首や肩のコリ・痛み	8. 関節痛がある
9. 血圧が高い	10. 血圧が低い	11. 足腰が弱い(階段の登り降りがつらい)	
12. その他( )			

2-①

(%)

	(1)	(2)	(3)
全体	68.5	26.9	2.5
60才代	72.9	22.9	3.1
70才代	66.3	28.8	2.5
80才代以上	57.1	38.1	0

2-③

(%)

	全体	男	女	60才代	70才代	80才以上
(1)	27.4	31.0	22.9	32.3	23.8	19.0
(2)	15.7	7.1	27.7	16.7	13.8	19.0
(3)	22.8	19.5	27.7	17.7	28.8	23.8
(4)	17.8	19.5	15.7	13.5	20.0	28.6
(5)	4.1	5.3	2.4	4.2	3.8	4.8
(6)	11.7	11.5	10.8	13.5	8.8	14.3
(7)	19.8	12.4	28.9	22.9	16.3	19.0
(8)	17.3	16.8	16.9	11.5	21.3	28.0
(9)	23.4	23.9	22.9	20.8	25.0	28.6
(10)	7.1	8.0	6.0	8.3	6.3	4.8
(11)	23.4	21.2	25.3	14.6	30.0	38.1
(12)	2.5	2.7	2.4	3.1	2.5	4.8

2-②

(%)

	(1)	(2)
全体	53.3	36.0
60才代	57.3	33.3
70才代	51.3	35.0
80才代以上	42.9	52.4

# 近郊農村における高齢者の生活と意識

3. あなたの日頃の生活状況についてお伺いします。

① あなたは1年を通じて昼間はどこで過ごすことが多いですか。

1. 屋内で過ごすことが多い      2. 屋外で過ごすことが多い      3. 半々

3-① (%)

	(1)	(2)	(3)
全体	27.4	30.5	37.6
三好ヶ丘など	44.0	12.0	44.0
男	23.9	40.7	31.9
女	32.5	15.7	45.8
60才代	21.9	32.3	41.7
70才代	25.0	32.5	38.8
80才以上	61.9	14.3	14.5

② 次に挙げる家事をお宅ではどなたがなさっていますか。それぞれ当てはまる番号に一つ○印をつけて下さい

・食料品・日用品の買物は

1. 誰もしていない      2. 自分がしている      3. 家族以外の者がしている  
4. 家族の者がしている(別居の家族の手助けも含む)

・炊事は

1. 誰もしていない      2. 自分がしている      3. 家族以外の者がしている  
4. 家族の者がしている(別居の家族の手助けも含む)

・洗濯は

1. 誰もしていない      2. 自分がしている      3. 家族以外の者がしている  
4. 家族の者がしている(別居の家族の手助けも含む)

③ あなたの趣味は何ですか(いくつでも○印を)

1. 特にない      2. カラオケ      3. 手工芸      4. 畑仕事      5. 園芸・盆栽      6. お茶・お花  
7. 陶芸      8. 踊り      9. 楽器(三味線・大正琴等)      10. 旅行      11. 囲碁・将棋      12. ゴルフ  
13. グラウンドゴルフ・ゲートボール等のスポーツ      14. 釣り      15. その他( )

3-② (%)

	(1)	(2)	(3)	(4)
〈買い物〉				
全体	1.5	25.4	0	71.1
三好ヶ丘など	0	44.0	0	56.0
男	1.8	8.8	0	86.7
女	1.2	48.2	0	49.4
〈炊事〉				
全体	0	20.3	0	77.2
三好ヶ丘など	0	32.0	0	68.0
男	0	1.8	0	95.6
女	0	45.8	0	51.8
〈洗濯〉				
全体	0	20.3	0	77.2
三好ヶ丘など	0	44.0	0	56.0
男	0	8.0	0	90.3
女	0	74.7	0	22.9

3-③ (%)

	全体	男	女
(1) 特にない	7.1	8.0	6.0
(2) カラオケ	20.3	19.5	21.7
(3) 手工芸	9.6	4.4	16.9
(4) 畑仕事	38.6	36.3	41.0
(5) 園芸・盆栽	28.9	28.3	28.9
(6) お茶・お花	7.1	1.8	13.3
(7) 陶芸	0	0	0
(8) 踊り	5.1	0	12.0
(9) 楽器(三味線・大正琴等)	4.1	2.7	6.0
(10) 旅行	33.5	32.7	33.7
(11) 囲碁・将棋	6.1	10.6	0
(12) ゴルフ	8.6	11.5	4.8
(13) ゲートボールなど	27.4	26.5	28.9
(14) 釣り	7.1	12.4	0
(15) その他	11.2	11.5	10.8

## ④ あなたにお子さんやお孫さんはおられますか(当てはまるところ全てに○印を)

・あなたのお子さんは

1. いない      2. 同居の子供がいる      3. 別居の子供がいる〔全員で( )人〕

・あなたのお孫さんは

1. いない      2. 同居の孫がいる      3. 別居の孫がいる〔全員で( )人〕

・あなたの全員のお子さんが住んでおられる所に全て○印を

1. 同居している      2. 徒歩でいける近所にいる      3. 同じ「字」(集落)の中にいる  
 4. 同じ市町村にいる      5. 県内にいる      6. 国内( )県  
 7. 子供はいない

## 3-④ (%)

	(1)	(2)	(3)
〈あなたの子どもは〉			
全体	3.6	72.1	53.3
三好ヶ丘など	12.0	40.0	76.0
〈あなたの孫は〉			
全体	7.6	59.9	55.8
三好ヶ丘など	20.0	36.0	72.0

(%)

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
全体	66.5	18.3	7.1	20.8	38.6	13.2	2.0
三好ヶ丘など	36.0	8.0	0	4.0	56.0	32.0	12.0

## ⑤ 別居しているお子さんがいる方のみ、そのお子さん(全員を思い浮かべて)とのつき合いについてお尋ねします

・お子さんの中の誰かと会う回数は

1. ほとんど毎日      2. 週に1回以上      3. 月に1・2回      4. 年に数回  
 5. めったに会わない

↓  
会う時は

1. 自分からが多い      2. 子供からが多い      3. 同じくらい

・お子さん達が訪ねて来るのはどんな時ですか(いくつでも○印を)

1. 日常的に      2. 敬老の日      3. 行事の時(全てに○印を：地区の祭・お彼岸・お盆・正月・法事)  
 4. 病気になった時      5. 家族の祝事(誕生日等)      6. その他( )

・自分から会いに行かれるのはどんな時ですか(いくつでも○印を)

1. 日常的に      2. 家族の祝事(誕生日等)      3. 行事の時(全てに○印を：地区の祭・お彼岸・お盆・正月・法事)  
 4. その他( )

・お子さんの中の誰かと電話で話すのは

1. ほとんど毎日      2. 週に1回以上      3. 月に1・2回      4. 年に数回  
 5. めったに話さない      6. すぐ近くにいるので直接会って話す

↓  
電話するのは

1. 自分からが多い      2. 子供からが多い      3. 同じくらい

近郊農村における高齢者の生活と意識

3-⑤

(%)

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
全体	19.3	13.7	18.8	14.2	3.0
三好ヶ丘など	0	16.0	36.0	16.0	8.0
男	17.7	18.6	15.9	13.3	2.7
女	21.7	7.2	22.9	15.7	3.6
60才代	19.8	13.5	15.6	13.5	2.1
80才以上	28.6	4.8	9.5	19.0	4.8

(会うとき)

(%)

	(1)	(2)	(3)
全体	8.1	31.0	19.3
60才代	4.2	30.2	19.8
70才代	13.8	26.3	21.3
80才代以上	4.8	33.8	9.5

(子どもが訪ねてくるとき)

(%)

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
全体	36.5	18.3	50.8	21.8	16.8	4.1
三好ヶ丘など	36.0	28.0	48.0	16.0	20.0	8.0
男	38.9	17.7	48.7	18.6	16.8	2.7
女	33.7	19.3	54.2	26.5	16.9	8.0

(自分から)

(%)

	(1)	(2)	(3)	(4)
全体	31.5	17.3	25.7	8.1
三好ヶ丘など	20.0	28.0	24.0	8.0
男	33.6	16.8	21.2	9.7
女	28.9	18.1	31.3	6.0

(電話の回数)

(%)

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
全体	4.6	20.8	18.3	9.6	4.1	11.2
男	3.5	21.2	15.9	8.0	6.2	11.5
女	6.0	20.5	21.7	12.0	1.2	10.8

(電話は誰からか?)

(%)

	(1)	(2)	(3)
全体	10.7	13.2	29.9
三好ヶ丘など	12.0	24.0	28.0
男	6.2	13.3	31.9
女	16.9	13.3	27.7

⑥ あなたは年老いてからの家族(子供や孫)とのつき合いについて、どのようにお考えですか(一つだけ○印を)

・子供やお孫さんとは

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| 1. いつも一緒に生活するのがよい | 2. 時々会って食事や会話をするのがよい  |
| 3. たまに会話する程度でよい   | 4. 互いに干渉し合わずに生活するのがよい |

3-⑥

(%)

	(1)	(2)	(3)	(4)
全体	52.3	26.4	5.1	11.2
三好ヶ丘など	28.0	32.0	16.0	20.0
男	58.4	22.1	5.3	8.8
女	44.6	31.3	4.8	12.0

⑦ あなたは近所の人達とどのようなおつき合いをされていますか(いくつでも○印を)

- |                |                  |              |
|----------------|------------------|--------------|
| 1. つき合いはしていない  | 2. おかず等のおすそ分けをする | 3. 悩み事の相談をする |
| 4. 病気の時に助け合う   | 5. お金を貸したり借りたりする | 6. 挨拶や立ち話をする |
| 7. お茶や食事を一緒にする | 8. その他( )        |              |

3-⑦

(%)

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
全体	5.6	20.8	11.2	23.4	0.5	82.7	27.4	4.1
三好ヶ丘など	4.0	20.0	16.0	36.0	0	80.0	36.0	4.0
男	7.1	15.9	8.0	21.2	0.9	81.4	19.5	3.5
女	3.6	27.7	15.7	26.5	0	84.3	38.6	4.8
60才代	5.2	22.9	15.6	30.2	1.0	87.5	29.2	5.2
70才代	6.3	21.3	7.5	16.3	0	78.8	25.0	2.5
80才以上	4.8	9.5	4.8	19.0	0	76.2	28.6	4.8

⑧ あなたは近所の人達とどのくらい話をしますか

1. 毎日 2. 週に数回 3. 週に1回位 4. 月に1・2回 5. 年に数回 6. ほとんどしない

⑨ あなたは家族以外の人で相談し合える親しい友人がいますか(一つだけ○印を)

1. 同性の友人がいる 2. 異性の友人がいる 3. 同性と異性の友人がいる 4. いずれもない

3-⑧

(%)

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
全体	32.5	39.1	13.7	5.1	2.0	3.0
男	31.9	41.6	10.6	5.3	2.7	4.4
女	32.5	36.1	18.1	4.8	1.2	1.2
60才代	32.3	43.8	11.5	7.3	1.0	1.0
70才代	31.3	36.5	17.5	2.5	3.8	5.0
80才以上	38.1	28.6	9.5	4.8	0	4.8

3-⑨

(%)

	(1)	(2)	(3)	(4)
全体	51.3	1.0	14.7	21.8
男	42.5	0.9	22.1	24.8
女	63.9	1.2	4.8	18.1
日本	60.0	1.5	9.0	28.7
イギリス	27.4	1.6	62.7	7.9
アメリカ	32.8	2.3	39.9	24.9

後段の部分は『老人と生活意識』

⑩ あなたは地域の人達と一緒にする次のような活動にどの程度参加していますか

(それぞれあてはまる番号に○印を)

	いつも参加	時々参加	参加しない
・祭りなどの地域の行事には――→(	1	2	3 )
・老人クラブの集まりには――→(	1	2	3 )
・趣味や学習などのグループ活動には――→(	1	2	3 )
・地域でのその他の活動(奉仕活動等)には――→(	1	2	3 )

3-⑩

(%)

	いつも参加	時々参加	参加しない	無回答
〈祭など地域の行事に〉				
全体	37.6	35.0	10.2	17.2
男	45.1	33.6	10.6	10.6
女	27.7	37.3	9.6	25.3
〈老人クラブの集まりに〉				
全体	64.5	24.9	6.1	4.5
男	64.6	21.2	9.7	4.4
女	65.1	28.9	1.2	4.8
〈趣味・学習などの活動〉				
全体	33.0	20.3	19.3	27.4
男	34.5	23.0	19.5	23.0
女	31.3	16.9	19.3	32.5
〈奉仕活動などに〉				
全体	54.3	25.4	9.1	11.8
男	53.1	25.7	12.4	8.8
女	56.6	24.1	4.8	14.5

## 近郊農村における高齢者の生活と意識

4. 次に挙げる事柄について、あなたの考え方やお気持ちをお聞かせ下さい。

① あなたは「老人になったと意識する」のは何歳位からだと思いますか

1. 60歳以上    2. 65歳以上    3. 70歳以上    4. 75歳以上    5. 80歳以上    6. 85歳以上

4-① (％)

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
全体	3.6	32.5	41.6	15.2	4.1	0.5
男	2.7	34.5	45.1	10.6	5.3	0
女	4.8	30.1	36.1	21.7	2.4	1.2
60才代	6.3	42.7	30.2	16.7	1.0	0
70才代	1.3	18.8	57.5	13.8	6.3	0
80才以上	0	38.1	33.3	14.3	9.5	4.8

② あなたは「高齢になる」ということについて考える時にどのように感じますか(一つだけ○印を)

1. 寂しさを感じる    2. 恐ろしさを感じる    3. 死について思ってしまう  
4. 色々なことができるようになる

4-② (％)

	(1)	(2)	(3)	(4)	無回答
全体	44.7	3.0	12.2	24.9	15.2
男	42.5	2.7	10.6	33.6	10.6
女	48.2	3.6	14.5	13.3	20.5
60才代	44.8	4.2	9.4	25.0	16.7
70才代	46.3	2.5	13.8	27.5	10.0
80才以上	38.1	0	19.0	14.3	28.6
健康者	47.4	0.7	11.9	28.1	11.9
健康でない人	38.7	8.1	12.9	17.7	22.6

③ 下の中で、あなたの人生を通じて大切だと思われるものはどれですか(下の□にその番号を書いて下さい)

1. 家族・子供    2. 宗教・信仰    3. 健康    4. 財産    5. 近所づき合い  
6. 友人・仲間    7. 地域社会

・一番大切なものは→ □ 番    ・二番目に大切なものは→ □ 番

4-③ (％)

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無回答
〈一番大切なもの〉								
全体	53.8	0	36.0	1.0	2.0	1.0	0	6.1
男	59.3	0	29.2	1.8	2.7	0.9	0	6.2
女	45.8	0	45.8	0	1.2	1.2	0	6.0
〈二番目に大切なもの〉								
全体	30.5	5.1	40.1	2.5	6.6	5.1	2.0	8.1
男	25.7	4.4	43.4	3.5	7.1	3.5	3.5	8.8
女	37.3	6.0	36.1	1.2	6.0	6.0	0	7.2
〈一番目+二番目〉								
全体	84.3	5.1	76.1	3.5	8.6	6.1	2.0	14.2
男	85.0	4.4	72.6	5.3	9.8	4.4	3.5	15.0
女	83.1	6.0	81.9	1.2	7.2	7.2	0	13.2

## ④ あなたには悩みや心配事がある場合、気軽に相談できる人はいますか

1. いる 2. いない

## ⑤ (1. 「いる」と答えた方へ)

あなたには悩みや心配事がある場合、気軽に相談できる人は下の中の誰ですか(いくつでも○印を)

1. 兄弟姉妹 2. 息子 3. 娘 4. 息子の妻 5. 娘の夫 6. その他の親族  
7. 近所の友人 8. その他の友人 9. その他( )

4-④ (%)

	(1)	(2)	無回答
全体	86.8	8.1	5.1
男	84.1	10.6	3.5
女	90.4	4.8	4.8

4-⑤ (%)

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
全体	42.6	51.8	44.2	23.4	16.8	10.2	15.7	9.1	5.6
男	34.5	49.6	39.8	21.2	20.4	12.4	15.0	8.8	8.8
女	53.0	54.2	49.4	25.3	12.0	6.0	16.9	9.6	1.2

## ⑥ (2. 「いない」と答えた方へ)

あなたには悩みや心配事がある場合、気軽に相談できる人が現在はいないが、相談したいと思っている人は下の中の誰ですか(いくつでも○印を)

1. 誰もいない 2. 兄弟姉妹 3. 息子 4. 娘 5. 息子の妻  
6. 娘の夫 7. その他の親族 8. 近所の友人 9. その他の友人  
10. その他( )

4-⑥

(% )

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
全体	2.0	2.5	2.0	3.0	0	0	0	1.0	0.5	0
男	1.8	3.5	1.8	2.7	0	0	0	0.9	0.9	0
女	2.4	1.2	2.4	3.6	0	0	0	1.2	0	0

## ⑦ もし、あなたが自分で身の回りのことができなくなったら、あなたは介助を誰に頼みたいですか(下の□にその番号を書いて下さい)

1. 誰もいない 2. 地域のボランティア 3. 家政婦・ホームヘルパーさん 4. 親しい友人  
5. 同居している子供(息子・嫁・娘) 6. 別居している子供(息子・嫁・娘) 7. 近所の人  
8. 近くに住む親族(孫・兄弟姉妹・おい・めい) 9. その他( )

・第一に頼みたい人は→ □ 番 ・第二番目に頼みたい人は→ □ 番 ・三番目に頼みたい人は→ □ 番

4-⑦

(% )

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	無回答
〈1番目〉										
全体	1.5	2.0	4.1	0.5	65.0	13.2	0	4.1	3.0	6.6
三好ヶ丘など	4.0	0	12.0	4.0	36.0	20.0	0	32.0	8.0	0
男	1.8	2.7	3.5	0.9	61.9	13.3	0	3.5	5.3	7.1
女	1.2	1.2	4.8	0	68.7	13.3	0	4.8	0	6.0
〈2番目〉										
全体	0.5	5.6	12.2	1.0	2.5	36.0	0.5	20.8	1.0	19.8
三好ヶ丘など	4.0	8.0	20.0	4.0	8.0	31.6	0	20.0	0	12.0
男	0	2.7	10.6	0	4.4	36.3	0	23.0	1.8	21.2
女	1.2	9.6	14.5	2.4	0	34.9	1.2	18.1	0	18.1
〈3番目〉										
全体	0	5.6	16.8	2.5	2.0	4.6	8.6	20.8	0	39.1
三好ヶ丘など	0	4.0	8.0	4.0	4.0	8.0	8.0	16.0	0	48.0
男	0	7.1	15.0	2.7	2.7	3.5	10.6	20.4	0	38.1
女	0	3.6	18.1	2.4	1.2	6.0	0.6	21.7	0	41.0